

核データ国際会議準備委員会

第 2 回 会 合 議 事 録

日 時 昭和60年8月22日(木) 13:30～17:30

場 所 原研本部第5会議室

出席者 大谷, 北沢, 瑞慶覧, 川合, 木村, 秋山, 菅原, 石黒, 水本, 五十嵐

配布資料

- (1) 核データ国際会議準備委員会第1回会合議事録
- (2) 1988年核データ国際会議について
- (3) 1988年核データ国際会議準備委員会委員名簿
- (4) 1988年核データ国際会議準備小委員会議事録抜粋
- (5) Conference Topics (Antwerp, Santa Fe)
- (6) 核データ国際会議準備予定表
- (7) 遮蔽国際会議の組織委員, プログラム委員名簿
- (8) Antwerp 会議の組織委員, プログラム委員名簿
- (9) Santa Fe 会議の組織委員, プログラム委員名簿
- (10) NEANDC 委員名簿
- (11) INDC 委員名簿
- (12) INDC Liaison Officer 名簿
- (13) Santa Fe 会議報告書

議 事

I. 前回議事録確認

配布資料(1)により確認を行い, 了承された。

II. 経過報告

配布資料(2), (3)によりこれまでの経過説明を行った。

人事異動などによる委員の交替があり, 先きの運営委員会で改めて以下の方々に委員をお願いすることになった。

秋山雅胤(東京大学工学部原子力工学研究施設)

五十嵐信一（委員長）原研核データセンター）
川合 将義（日本原子力事業（株）総合研究所）
北沢日出男（東京工業大学原子炉工学研究所）
木村 逸郎（京都大学原子炉実験所原子炉核特性部門）
大谷 暢夫（動力炉・核燃料開発事業団動力炉研究開発本部）
菅原 彬（三菱原子力工業（株）炉心設計部）
石黒 幸雄（原研原子炉工学部原子炉システム研究室）
水本 元治（原研物理部核物理第二研究室）
瑞慶覧 篤（（株）日立製作所エネルギー研究所第1部）

Ⅲ. 会議の名称とトピックス

会議の性格を表すのに適当な名称を検討した。

案として、

International Conference on Nuclear Data for

- (i) All the Peaceful Applications
- (ii) Science and Technology
- (iii) Science and Engineering
- (iv) Nuclear Science and Technology

が挙げられた。

名称はトピックスとも関係するので、配布資料(4)、(5)を用いてトピックスについて議論を行った。

トピックスは口頭発表の対象になるもので、日本が寄与できるもの、である必要がある。これらを考慮すると配布資料(4)で挙げたものが適当である、として、以下の項目を提案することにした：

1. 核分裂炉のための微分及び積分データ。
2. 核融合炉のための微分及び積分データ。
3. 測定施設、装置及び方法。
4. 核データの解析と評価。
5. 標準データ。
6. 核反応理論。
7. 核モデルによる計算と系統性。
8. 核構造及び崩壊データ。
9. 核燃料サイクル及び廃棄物処理のための核データ。

10. 中性子線量測定及び照射損傷に関する核データ。

11. 医学及び工業への応用のための核データ。

この内容に合う会議名称として、前記の(ii)又は(iii)を提案することにした。なお、最終的には後日発足するプログラム委員会において調整が行われる。

IV. 日程粗案

配布資料(6)により、Santa Fe 会議の準備日程と対比した粗案の検討を行った。
主な議論を挙げる：

(i) 会場の予約はかなり早く行う必要がある。

(ii) 専任の事務員と強力な事務局が必要である。

(iii) 遮蔽国際会議の時には事務を外部に委託した。

(iv) First Circular を出す前に招待講演者を決める必要がある。1986年8月頃が適当である。

(v) プログラムの最終決定を1988年3月として、発表の採否決定を1987年12月を目安にする。これを基準にすると Abstract の第一次締切りは1987年9月、最終締切りは1988年2月になる。

(vi) 組織委員会とプログラム委員会の発足は1986年度からで良い。

V. 組織委員会およびプログラム委員会について

組織委員は機関代表と事務局で構成するのが良く、メンバーは機関名で推せんして、機関ごとに代表を出してもらうようにする。

プログラム委員は個人名で推せんし、分野を考慮した構成にする。

組織委員、プログラム委員とも原研からの委嘱状が必要である。このために、原研内の手続きを早く実施する必要がある。

事務局を早く設置して検討してもらう。

国際委員会メンバーはトピックス毎に2名位を当てる。

国内、国際委員会メンバーの原案を五十嵐が作り、郵送で当委員会委員の意見を聞くことにした。

VI. その他

日程表を整理する。

会議のシンボルを考える。

次回は日程と国内プログラム委員の推せん案を作る。

10月8日(火)東京で開催する。